

快進撃を続ける富士通の最新 UNIX サーバ
「SPARC M12」

世界各国で採用が進む、その魅力とは

富士通が2017年4月に発表した最新UNIXサーバ「SPARC M12」は、すでにさまざまな企業・団体で採用が進んでいる。本稿では世界各国でSPARC M12のビジネスに携わる4人に、同製品の魅力や選ばれる理由を語ってもらった。

Daniel Choo氏

富士通アジア、リージョナルプロダクトディレクター。シンガポールを拠点とし、中国市場を中心にアジア全体の富士通SPARCサーバ事業のビジネス開発を担当。

Carl Hill氏

富士通テクノロジー・アンド・ビジネス・オブ・アメリカ、北米ビジネス開発マネージャー。北米におけるSPARCソリューションのビジネス開発を担当。



Rory Phipps氏

英国富士通、SPARC64ビジネス開発マネージャー。英国でSPARCソリューションのビジネス開発を担当。

Gu Hana氏

韓国富士通、マーケティング部マネージャー。韓国市場で主にUNIXサーバとストレージのマーケティングを担当。

富士通が2017年4月に発表した最新UNIXサーバ「SPARC M12」は、同社が企業のイノベーションを加速させるプラットフォームとして開発したものだ。業界標準ベンチマークテストで世界最高性能とされる最新SPARC64プロセッサ「SPARC64 XII」を搭載しており、従来製品の「SPARC M10」と比較してコアあたりのスループット性能は最大2.5倍となっている。また、コア性能が大幅に強化されたことで業務に必要なリソースが削減できるため、ソフトウェアやサポートを含めたトータルコストも劇的に最適化することが可能だ。



4月に発売されて以来、すでに世界各国のさまざまな業種でSPARC M12の採用が進んでいる。国を代表するような大手企業から政府関連機関まで、導入先は幅広い。実際にどのような企業や団体に採用され、どう活用されているのだろうか。

国、地域を問わず、さまざまな企業・自治体に

—まず、Chooさんから見て中国市場におけるSPARC M12の状況はいかがですか。

Choo氏

中国では4月のSPARC M12発表以来、積極的にプロモーションを実施しました。パートナーと共同で製品の認知度向上に努め、さまざまな企業に採用を働きかけました。中国最初のユーザーはグローバルで事業を展開する企業でした。

—そのユーザーがSPARC M12を導入するに至った経緯を教えてください。

Choo氏

最初に導入が決まったグローバル企業では、オラクルのデータベースを導入するにあたり新たなハードウェアの購入を検討していました。その際にお客様が重視した点は、パフォーマンス、安定性、そして価格競争力です。そこで富士通のSPARC M12を紹介しました。SPARC M12は

性能面で申し分がないだけでなく、使用しているプロセッサ・コア数分だけ課金される Capacity on Demand 方式が適用されるので、オラクルデータベースのライセンス料が抑えられます。この企業では SPARC M12 を採用することで、ハードウェアの刷新とオラクルデータベースのライセンスコスト最適化を同時に実現できることが採用の決定打になりました。



——次に、Gu さんにお話をおうかがいいたします。

Gu 氏

私は、韓国市場で主に UNIX サーバとストレージのマーケティングを担当しています。韓国では、すでに同国を代表する大手企業をはじめ、製造および公共分野のお客様が SPARC M12 を採用しました。利用分野は各社さまざまですが、主に経営資源管理 (ERP) や経営情報システム (MIS) のプラットフォームとして SPARC M12 を活用いただいています。

——Phipps さん、英国の状況はいかがですか。

Phipps 氏

私は、英国で SPARC ソリューションのビジネス開発を担当しています。英国では、リセラー、付加価値流通業者 (VAD)、そしてオラクルと共に、SPARC M12 の認知度向上はもちろんのこと、商談推進、販売、サポートと諸フェーズにおいて適切に連携しています。英国で最初に SPARC M12 を採用したのは、地方の A 自治体で、Oracle E-Business Suite のプラットフォームとして採用されました。



——SPARC M12 が導入された理由は何だったのでしょうか。

Phipps 氏

SPARC M12 導入前に利用していたのは、富士通の旧世代のサーバ「SPARC Enterprise M5000」および「SPARC Enterprise M4000」で、これらをミッションクリティカルな環境で運用していました。今回の SPARC M12 の採用は、最新テクノロジーへの刷新によりシステムの性能向上を図りつつ、上昇を続けていたサポートコストを削減することが目的です。

——最後に、Hill さんに、北米の状況をおうかがいします。

Hill 氏

北米でも初期ユーザーのひとつにカナダの政府関連機関が名を連ねています。この案件は、オタワに拠点を置く Solaris のノウハウが豊富なりセラーとの協業によるものでした。

——SPARC M12 が採用された理由を教えてください。

Hill 氏

その政府機関は、ある業務のデジタル化によりサーバの増強を検討していました。長年 Oracle Solaris 10 搭載の『SPARC Enterprise M9000』を利用しており、その使用感にも満足していたことから、リセラーが後継の最新製品である SPARC M12 ヘリブレースすることを提案したのです。新システムは、その業務全般にわたって活用されることとなります。

なぜ選ばれた？ SPARC M12 採用のポイントとは

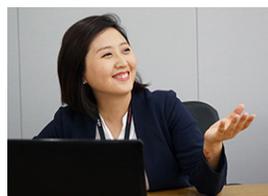
——SPARC M12 の採用にあたり、各組織ではどのようなポイントを重視したのでしょうか。

Choo 氏

中国で最初に SPARC M12 を採用した企業では、富士通以外にも 2 つのベンダーの製品を検討し、3 社がそれぞれ提案書と見積書を提出していました。提案書を元にお客様が社内でレビューを行った結果、最終的に富士通の SPARC M12 を選択されたのですが、パフォーマンス、RAS 機能、トータルコストにおいて勝っていたのが主な理由です。

Gu 氏

韓国で SPARC M12 を採用したお客様は、システムのリブレースおよび移行によるリスクを最小限にとどめるため、OS (Oracle Solaris 10)、データベース (Oracle Database 10g) などのソフトウェアは既存システムと同一バージョンを継続できる方式での移行を希望されていました。また、最新アーキテクチャを採用したサーバとストレージであることも要件のひとつでした。



——他社製品との競合はなかったのですか。

Gu 氏

そのお客様もさまざまな製品を比較検討されました。その結果、今の環境をそのまま保持しつつ、既存モデルよりもコア性能が大幅に向上されること、かつライセンス費用が削減できることなどが評価され、採用に至ったのです。

——Phipps さん、英国の A 自治体が SPARC M12 を採用したポイントを教えてください。

Phipps 氏

SPARC M12 が採用されたポイントのひとつは、SPARC M12 が CPU コア アクティベーションに対応していることです。CPU コア アクティベーションとは、1 コア単位でハードウェアリソースの追加ができる機能で、業務量が増加した際にもシステムを停止させることなくサーバの処理能力を段階的に増強できます。A 自治体はこの機能を高く評価していました。

——他の製品との比較検討はなかったのですか。

Phipps 氏

他のサーバもいろいろ検討されていました。ただ、SPARC M12 以外では環境をすべて再構築する必要がありました。

——それで採用に至ったというわけですか。

Phipps 氏

SPARC M12 が、既存環境における処理能力の配分を CPU コア アクティベーションにより最適に分散・強化できることや、最新システムの SPARC M12 であれば他のソリューションよりシステムのライフサイクルが長くなる点、さらには A 自治体がこれまで利用していたシステムと管理方法が同じであるため、何も変更せずにシステムを管理することも採用のポイントになりました。

Hill 氏

カナダの政府機関の案件も、英国のケースと同様 SPARC Enterprise からの“移行組”です。SPARC M12 を採用した背景には、従来製品を高く評価していただけており、既存製品と同タイプの新製品であれば、移行も効率的かつ安心安全に行えるということが挙げられます。

——移行のしやすさがポイントだったのですか。

Hill 氏

他にも理由はいくつかあります。カナダの政府機関では、物理サーバ上で Oracle Solaris 10 の運用環境を構築すると決めていました。それができるのは富士通の SPARC M12 のみだったのです。また、SPARC Enterprise M9000 で高く評価いただいた動的再構成機能（業務を停止することなくハードウェア構成を変更する機能）を備えていたこともポイントとなりました。さらには、SPARC M12 の強化されたコア性能によって、コア単位で課金されるオラクルソフトウェアのライセンスコストが削減できることも決め手となりました。



求められるミッションクリティカル性

——すでに SPARC M12 の導入を決定したお客様が数多く存在する海外では、さまざまな分野からの引き合いが多いようですが、どういったタイプのお客様からの問い合わせが多いのか、お聞かせください。

Gu 氏

韓国では、主に公共機関や金融、製造業からの引き合いが多いです。今後もこれらの業界をターゲットとしていきたいですね。

Phipps 氏

英国ではお客様の業種や求めている要件はさまざまですが、共通しているのはソリューションにミッションクリティカル性を求めている点です。また、バックオフィスで組織のメイン IT システムとして運用できることです。

Hill 氏

北米でもさまざまな業界から問い合わせがあります。中でも価格を重視しているお客様が多いと感じます。ただし、どのモデルに対しても、最新の製品に容易に移行できることや、製品そのものの信頼性が必須条件です。

Choo 氏

中国はアジアパシフィック地域最大の UNIX 市場で、国としての経済成長の速度も世界トップクラスです。そのため、引き合いの数も他国をしのいでいます。企業規模としてはやはり大企業からの問い合わせが多く、業種は製造、石油ガス、運輸、物流、政府機関など多岐にわたります。ただし、どのお客様も 24 時間 365 日、ノンストップでビジネスを支えられるインフラであることを要件としています。少しの障害でも大きなビジネスの損失につながるためです。

——ミッションクリティカルであることが不可欠な要件なのですね。

Choo 氏

今後も、ミッションクリティカル環境で高可用性を求めている顧客を中心にアプローチしたいです。SPARC M12 は、高可用性が確保できるのはもちろんのこと、これまでにないパフォーマンスを提供し、ソフトウェアライセンスを含む TCO を大幅に削減することが可能です。また、富士通の SPARC サーバはオラクルと密に連携して開発しているため、オラクルのデータベースやアプリケーションを利用しているお客様にとって、SPARC M12 は非常に親和性の高いプラットフォームです。オラクルユーザーへのアプローチも視野に入れていきます。

Phipps 氏

英国でも Oracle Database Enterprise Edition を採用していて、追加のライセンスやオプションへの投資が必要なお客様には、ぜひ SPARC M12 を勧めたいですね。

Hill 氏

その通りです。米国でも業種を問わずアプローチしたいと考えています。

Choo 氏

従来製品である SPARC M10 について、ミッションクリティカルな SAP 環境で M10-4S を利用している運輸業界のお客様から、一度もダウンタイムを経験せずに済んでいると、その信頼性を高くご評価いただいています。

——なるほど。高い信頼性はそのままに、性能が大幅に向上した SPARC M12 は、今後“攻めの経営”を実現するにあたって、企業を支える要のインフラとなりそうですね。本日はありがとうございました。

お問い合わせ

富士通コンタクトライン（総合窓口）

受付時間 9:00 ~ 17:30（土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く）

0120-933-200

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター